

# 「鳥取市立学校の適正規模・適正配置基本方針(素案)」について

## 説明資料



# 答申の目的は何ですか

「鳥取市全域の市立小・中学校・義務教育学校の学校配置及び校区の設定について」

- (1) 早急に議論が必要な学校区のあり方について
- (2) 鳥取市全域の中長期的な学校区のあり方について

諮問

教育委員会

答申

校区審議会

鳥取市立学校の配置及び校区の設定について(答申)

2年間、14回の審議 (会長 鳥取大学 本名俊正名誉教授<sup>2</sup>)

# 基本方針の項目

## 1、本市基本方針の考え方

(なんのために基本方針を策定しますか)

## 2、鳥取市の現状と課題

(鳥取市の学校は今どんな様子ですか)

## 3、本市の学校適正規模・適正配置について

(どうして独自の基準をつくりますか)

## 4、ブロック分けについて

(将来、自分の地区の学校はどうなりますか)

## 5、今後の取り組みについて

(何から始めたらよいですか)



## 本案の基本的な考え方

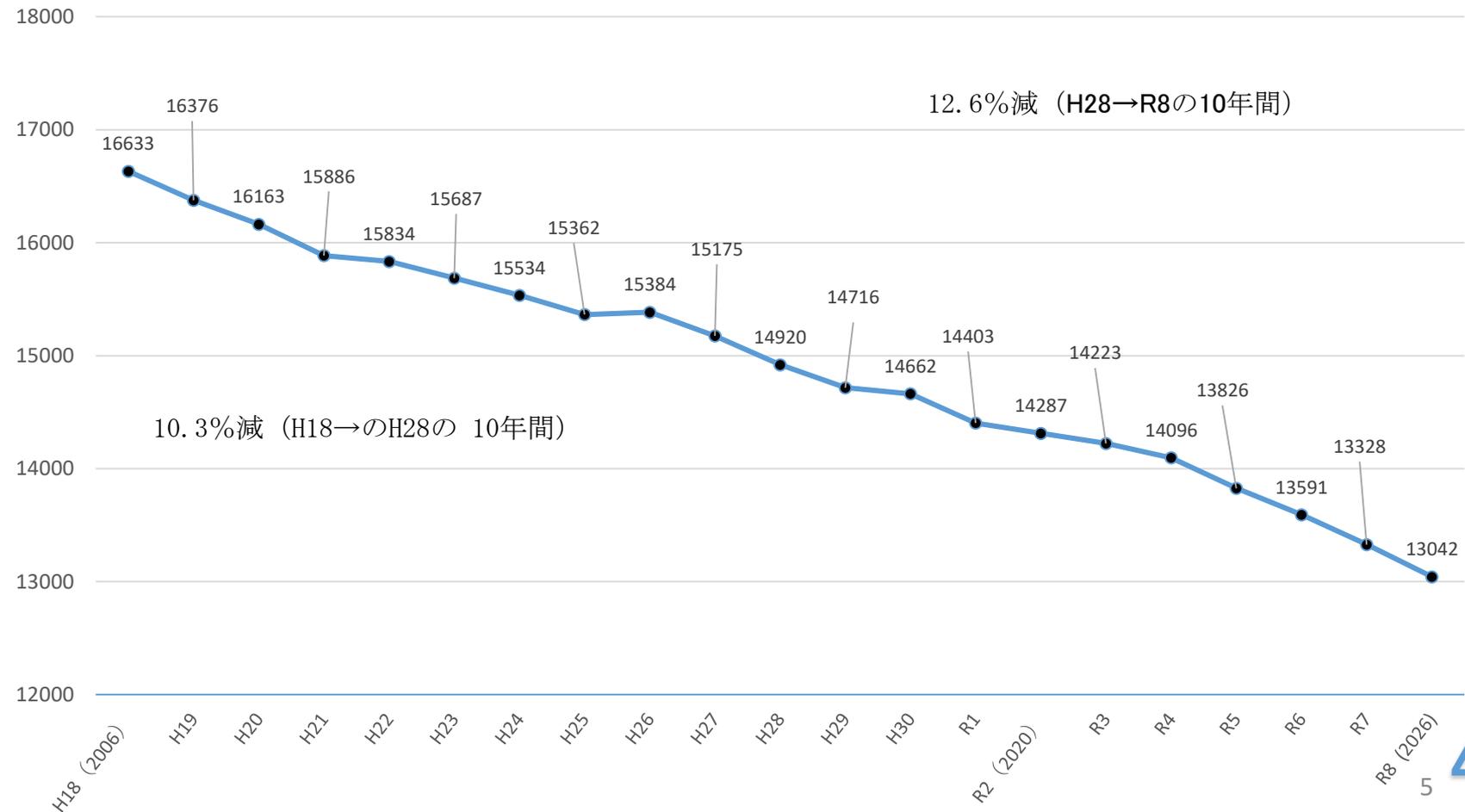


- 未来を担う子どもたちにとって平等で適切な教育環境の実現を最優先とします。
- おおむね20年後の姿を想定し全ての校区で検討組織の立ち上げを促します。
- 今後の学校のあり方については地域での責任ある議論を重視します。
- 鳥取市を5つのブロックに分けています。ブロック内の必要学校数は現時点での目安です。
- 本市における適正規模の基準（令和22（2040）年を想定）を策定しています。

## 鳥取市の児童生徒数の現状



令和9年までは実数が分かっていません



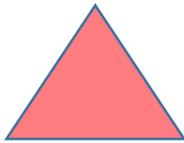


# 学校の小規模化



- ・ きめ細やかな指導
- ・ 運動場、プール等施設の空間的ゆとり
- ・ 発表の機会、リーダーになる機会

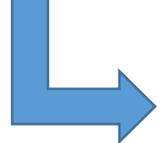
▲ ①子ども自体が少ない ②学級数が少ない ③先生の配置が少ない



- ・ 複式学級の増加
- ・ 集団での学びや経験の不足
- ・ 人間関係の固定化



しかし、それぞれの学校が、地域づくりの核であり、文化の拠点であり、防災拠点である。



地域で存続を検討する場合は、児童の教育環境に配慮した魅力ある学校づくりに努める必要がある（教育の機会均等）

# 従来指摘されてきた課題



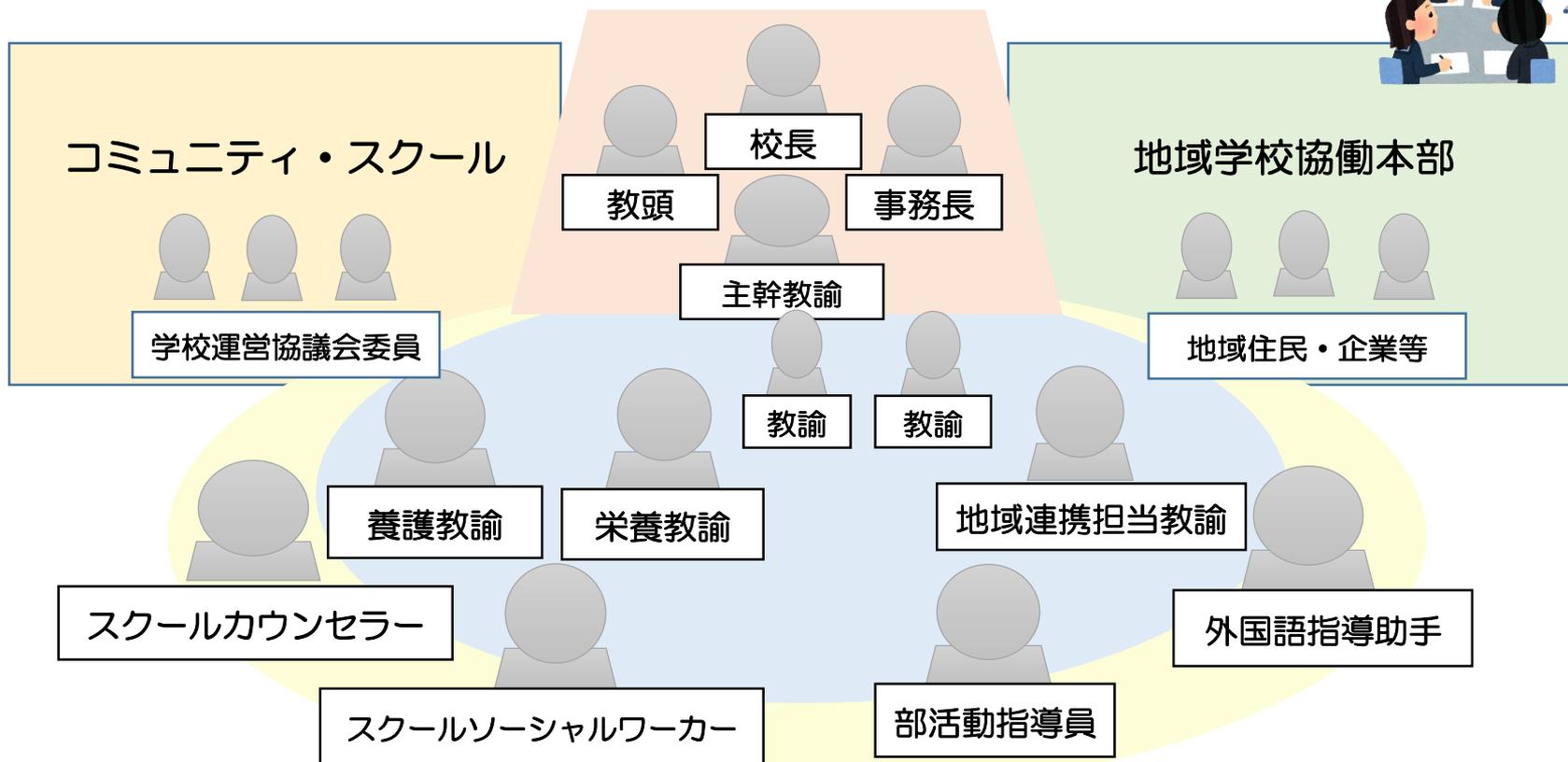
- ①通学等における安全上の課題
- ②地域の生活実態や地区公民館と小学校区が合致していないという課題
- ③比較的狭い範囲に学校が近接しているといった課題



# 社会の変化にともなう課題

これからの学校のかたち（チームとしての学校の考え方）

平成27年12月中央教育審議会答申資料より



# 本市としての適正規模の基準



鳥取市校区審議会では、法令や国の基準等を参考にして、公立学校の適正規模について以下のような議論を進めました。

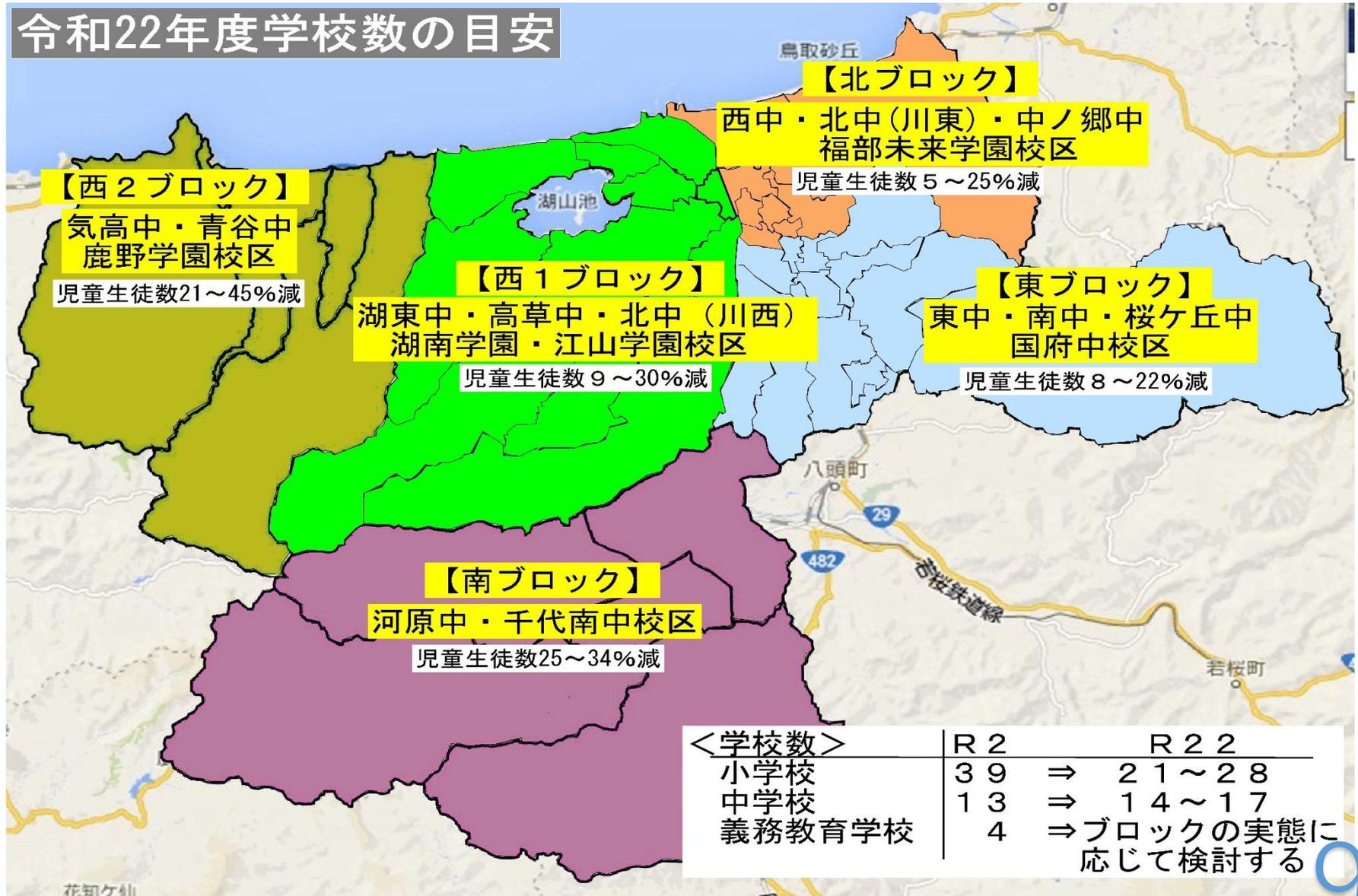
	小学校	中学校	義務教育学校
1校あたりの学級数	12～18学級	9～18学級	9～27学級

ただし、1学年の人数が極端に減少する場合は、学校統合の適否について検討する。

20年後には何校必要？

# ブロック分けについて

## 令和22年度学校数の目安



<学校数>	R 2	R 2 2
小学校	3 9	⇒ 2 1～2 8
中学校	1 3	⇒ 1 4～1 7
義務教育学校	4	⇒ ブロックの実態に 応じて検討する

この地図はあくまでも、本市の20年後の児童生徒数の推計をもとに、エリアごとの学校数の目安を示したものであり、現時点での案である。各エリアの生活実態、人口推移により、よりよい学校のあり方について地域で議論を開始するための参考とされたい。

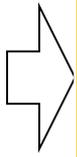
# 各ブロックの現状と見通し（西2ブロック）

小学校	【R2】	
	児童数	学級数
宝木	71	5
瑞穂	47	5
浜村	227	11
逢坂	30	4
青谷	181	8
鹿野学園(前期)	153	7
計	709	40



【R22】		
全児童数	全学級数	学校数
380 ~ 570	18 ~ 24	1 ~ 3 (含義務教育学校)

中学校	【R2】	
	生徒数	学級数
気高	184	6
青谷	105	4
鹿野学園(後期)	76	3
計	365	13



【R22】		
全生徒数	全学級数	学校数
220 ~ 290	9 ~ 12	1 ~ 3 (含義務教育学校)

早急に解決すべき課題



中長期の少子化・学校小規模化の課題に加えて

①千代川以西で城北小学校・北中学校に通学している児童生徒について

②小規模小学校について

③中心市街地の小学校について

## 検討組織の立ち上げについて

### ブロックごとの説明会（教育委員会）

- ・本市の状況や児童生徒数の推計、教育環境について
- ・まちづくりと学校のかかわりについて

#### 構成メンバーの例

- ・保護者代表
- ・地域代表
- ・これからの子育て世代代表
- ・学校関係者
- ・公募委員 等

検討組織の必要性についての理解

### ブロック別協議会（検討組織）の開催

- ・地域の将来像について意見交換
- ・住民への聞き取り、アンケート等

保護者・住民の十分な合意形成

### 関係学校別の協議

- ・学校のあり方について
- ・統合の可否について、組み合わせ等

# 今後の取り組みについて

- 校区審議会の答申 10月12日  
(審議会に代わって教育委員会で説明・意見募集：終了)
- ↓
- 答申を受けて教育委員会で素案を策定します
- ↓
- 教育委員会の素案について各地区で順次説明会 (12月以降)  
(同時に素案についてのパブリックコメントを募集します)
- ↓
- 鳥取市立学校の適正規模・適正配置についての基本方針策定  
(パブリックコメントを受けて策定します) (3月頃)
- ↓
- 地域ごとに検討組織をつくって協議  
(具体的な統廃合計画ではなく現状把握から)



希望により校区ごとに随時説明会